

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	理工学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 履修指導を組織的に実施するための「履修指導マニュアル」を学科毎に作成する。	→履修指導マニュアルの作成、およびその改訂状況。	C
2. 成績不振学生の履修指導方法を体系化する。	→履修指導を行った学生（保証人に連絡を行った学生を含む）の比率	C
3. 成績評価基準がシラバスに明記されるよう徹底する。	→シラバスへの成績評価方法記載率。	A
4. 学部独自のFD研修会を実施する。	→開催状況。	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

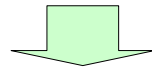
☆ 小項目6.3.1	(方針) 教育方法に関しては全般に非常に充実しており、これを維持する努力を継続する。学習指導に関しては、特に成績不振学生に対する指導の体系化を進めていく。 (現状説明) 学部の教育目標にも掲げている通り、実験・演習は重視しており、非常に充実している。1～3年次に配置されたこれらの実験・演習、および4年次の卒業研究によって、学生の主体性を育成することにも努めている。実験・演習には学部としても設備、人員等非常に多くの資源を投入しているが、今後もこれを維持する努力を継続したい。履修科目登録の上限は全学年とも年間50単位未満に制限している。また、各学生を担当する教員を定める「担任制度」により、履修指導を充実させている。GPAを基準に成績不振学生の保証人（保護者）に連絡を行うことを2008年度より試行しているが、これを更に効果的にする方式について検討を進めている。また、成績不振学生の履修指導を体系的に行うため、「履修指導マニュアル」の作成を進めている。
☆ 小項目6.3.2	(現状説明) 2010年度のシラバス入力システムの改修により、成績評価基準を含め、必須事項の記載のないシラバスは受理されなくなった。2008年度の授業評価を見る限り、シラバスと授業内容に著しい不整合は見られない。
☆ 小項目6.3.3	全科目の成績の分布を教授会で配布しているが、これから見る限り成績評価は概ね適切に行われている。カリキュラムWG（ワーキンググループ）および学部長室委員会では、成績分布に関する更に詳細な分析を行い、受講者数や成績分布に偏りが見られる科目については、各学科に点検および改善を行うよう求めている。
☆ 小項目6.3.4	理工学部FD（ファカルティディベロップメント）委員会で定期的（毎月1回開催）に学部でのFDの取り組みについて検討するとともに、学部独自のFD講演会を毎年実施している。テーマは、2008年度に全教員を対象に実施した「FD意識調査」の結果に基づき、教員の関心の高いものを選定している。

☆	その他
---	-----

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



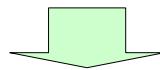
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.3.1	履修指導は、成績不振学生は言うまでもなく成績上位の学生にとっても重要であり、理工学部の担任制度を生かしてその充実を図ることが課題である。特にGPAが低い学生の保証人への通知を更に効果的なものにするために、現行方式の再検討が必要と考えている。
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.3.1	保証人への連絡制度を更に有効に働かせるための成績基準や方式について検討を進める。また、履修指導マニュアルを整備・充実させる計画である。
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆	その他 (自由記述)
---	---------------

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○評価項目の意図に沿った「目標・指標」が立てられていて適切です。この「教育成果」の項目については他大学でもあまり対応が進んでいないようですが、すでに卒業生アンケートなども実施済みとのことなので、今後も努力が続けられることとその成果が期待されます。

【学内委員】

○教育方法、学習指導に関し様々な工夫をされていることが評価できます。
○FD研修会については本年度の取組も記載されることが望まれます。
○教育および履修指導については、さまざまな諸施策が検討・実施されており、その点は非常に評価できます。ただ諸施策の中には試行的なものもあり、効果の有無を検証し、より効果が出るよう期待されます。シラバスの記載に関しても、システムの変更により不適切なものは記載できないよう工夫した点は評価できます。FD研修会も定期的に行われており、教員の関心も高い点は評価できます。今後、この内容が具体的な教育内容・方法の改善に結びつくことが期待されます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★ 3.4 (現状説明)
2009年度は、11月に「数学リメディアル教育」をテーマにした講演会を実施した。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.3.0.S1	大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
6.3.0.S2	履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
6.3.0.S3	少人数授業の授業形態の調査
6.3.0.S4	規模別講義室・演習室使用状況
6.3.0.S5	マルチメディア教室の稼働率
6.3.0.S6	遠隔授業を活用した授業の比率
6.3.0.S7	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.3.0.S8	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.3.0.S9	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.3.0.S10	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.3.0.S11	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.3.0.S12	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.3.0.S13	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.3.0.S14	履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
6.3.0.S15	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S16	オープン授業(授業公開)の全授業における割合
6.3.0.S17	学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
6.3.0.S18	学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S19	在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
6.3.0.S20	在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
6.3.0.S21	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(キリスト教関連科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S22	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(語学)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S23	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(一般教養的な授業)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S24	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(専門科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S25	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(ゼミ)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率

<個別的な指標>
